

# 同窓会通信

2013号

母校のますますの発展と同窓生の絆が広がるよう願っています。



同窓会会長 道田 聡

同窓会の皆様、ますますのご活躍とご健勝のこととお慶び申し上げます。

また平素より同窓会の活動に、ご理解とご愛顧を賜り心より御礼申し上げます。

さて、私たち母校は「広島なぎさ中学校・高等学校」と言う学校名で新しく生まれ変わり早くも4年が過ぎようとしています。最初は、新し

い学校名に戸惑いを感じていた同窓生の方々も少なくないと思います。しかし、今では世間の多くの方が「広島なぎさ中学校・高等学校」を認識され、広く世間にその名を広め今日に至っています。現在では中学校入試のみ行い、中高一貫の教育で1年生～6年生と言う呼び名で学年編成され、グローバル化される社会にいち早く新しい取り組みを成されています。

このような新しい取り組みに至るまでは、色々と試行錯誤され過去の実績に積み上げられた成果ではないでしょうか。

「広島工業大学附属広島高等学校・中学校」から早くも半世紀が過ぎようとしています。このたび、同窓生の皆さんにはこの節目の年に当たり、50周年の記念総会を企画しています。

皆様には大勢の同窓生をお誘い合わせの上ご参加をいただき大会を盛り立てて頂ければ幸いです。また、学校創立50周年には同窓会よ

り記念事業を行い、過去から現在に至るまでの、史実を刻み、これからの母校の発展と同窓会との関わりを総括するとともに、より一層の発展に寄与する事が私たち同窓生の責務ではないでしょうか。

さらに、同窓誌のみならず学校のホームページ、Facebookなどに多くの情報を記載し、同窓生の皆様からのメッセージを投稿していただける予定です。

一人のメッセージが波紋を広げ多くの「絆」が生まれることを期待しこれからの同窓生がさらに参加できる同窓会活動に発展することを願っています。

最後になりましたが、これらたくさんの活動に対し、役員一同一丸となって取り組んでいます。

皆様には少しのご無理なご協力とご参加をお願いし、50周年各事業の成功を一緒に喜びたいと思います。

2013年4月学校通信(NEWS)角島校長先生のメッセージです。



校長 角島 誠

今春卒業した卒業生が中学校に入学したのが、2007年。今春入学した中学1年生が高校を卒業するのが2019年。送り出す卒業式と迎え入れる入学式を行うこの時期に、改めて時間軸というもの意識するとともに、急速に揺らぎつつあるものが見えてきました。

## グローバル化の大波を前にして

日本経済の勢いがあった1980年代、ジャパンパッシングという表現で日本叩きが行われました。その勢いが無くなってきた1990年代後半からは、素通りされるという意味でジャパンパッシングと表現され、2000年代になると日本にはもう魅力が無いとジャパンパッシング、そして、2010年代になると、国際

的な発言力も低下し、姿が見えなくなったとジャパンミッシングと表現されています。経済のみならず、様々な分野での制度疲労などがあり、日本のすべてがそのように描写されてしまうかのような感覚の中、グローバル化の大波を前にして、自信喪失や存在存続の危機といった表現に象徴される空気で覆われているように思います。一方、東北大震災などの非常事態が起こると、略奪や混乱どころか、助け合い、相手を気遣う動きが起こるなど日本のモラルの高さが称賛されます。我々にしてみれば当たり前のようなことに過ぎません。また、この国の消費者が当然視している有形無形の商品に対する要求の高さが、信頼度の高いものを生み出し、困った時はメイドインジャパンと称賛されます。こうしてみるとジャパンパッシングではありません。新渡戸稲造がわざわざ「武士道」を文字にしたことで、日本の中ではあまりに当たりまえすぎたものが伝わり、興味なり関心なり注目を受けたように、日本の良さを把握する、主張する、発言する、伝えるということができれば、ジャパンミッシングなんてこともないはずで…

ん？果たしてそうでしょうか。

あるいはこういう捉え方自体が何かにとらわれた古い視点かもしれません。

## 今、自分が生徒なら

今、自分が生徒であれば、この時代だからこそ敢えて先生から絶えず問われ続けたいと思うことが3点:

- この国で、18歳まで教育を受けること、学ぶことの意味は?
- 国内の大学に進学する価値、特に文科系の学部は?
- ローカル、グローバル、どこで、何の専門性は?

## 答えるのではなく、応える

グローバル化という大波を回避することは不可能ですが、そういう時だからこそ、今あるものの存在意義をきちんと問い直すということが必要です。これらを問い続けることで、この時代に思春期を過ごせる者でしか得られない、そして次世代を切り開くのに耐えうる太い軸ができるように思います。3つの問いに対して、正解はありません。

その問いに答えるのではなく、応える教育が大切と認識しています。

時代の問いに応えるべく、本校は、4つの教育目標に基づいた様々なプログラムや仕掛けを用意しています。2013年度、しっかりもがきましょう。

# 21世紀を生きるグローバル生活人を育てるなぎさの特色教育

特色教育を実施している広島なぎさ中学校・高等学校の平成24年度の活動のダイジェストです。時代のニーズに合わせて教育プログラムを進化させ、生徒達が自ら考え行動しています。

## 1年校外学習

平成24年7月25日(水)～30日(月)  
『五感を開いて自然と対話し、自然の中で暮らしを作る体験をすること』『集団生活を通して、規律・責任・協力の大切さを体験すること』を目的として、クラス単位で1泊2日の自然体験を行いました。



### 「やる時はやる！」

私達の班の料理が終わってなかった時、声をかけたわけではないのに「手伝うよ」と言ってくれる人がいました。一緒に作ると料理がどんどん完成していくのでびっくりしました。また活動中も「やる時はやる」と気持ち切り替え、自分の仕事に打ち込んでいるみんなの姿はカッコイイと思いました。今回感じた「協力」と「真剣さ」を、クラスでも活かしていきたいと思いました。

1年1組 大石 寛

## 3年仕事ウォッチング／報告会

平成25年2月21日(木)  
①社会人の生き方や仕事に対する「おもい」を学ぶ、②社会人としてのマナーを学ぶ、③仲間と協力して、訪問・体験、報告会、報告集をつくりあげる、そして④それを通して自身の将来像を考える、という4つの目的のもと、30社のご協力を得て仕事ウォッチングが行われました。12月初旬から訪問先の職場について調べたり、挨拶などの社会人としてのマナーを練習したりと準備を重ね、訪問当日は実際に仕事が行われている現場の雰囲気を肌で感じる事ができました。その後、約1か月かけてLHRや放課後の時間を使い、体験を通して得た学びをグループごとにまとめました。それぞれ工夫を凝らした発表を行い、働くとはどういうことかについて考えを深める事ができました。



## 2年研修旅行／奈良、京都

平成24年10月9日(火)～12日(金)  
中学2年生は広島を離れ、奈良と京都に滞在し、3泊4日の研修を行いました。事前学習で調べておいた歴史的な場所を実際に目の当たりにすると、新たな発見や感動がありました。



### 「個人の力が高まり集団の力が高まる」

研修旅行を通じて集団の力を高めるためには、個人の力を高めなければならないことがわかりました。多数の人ができていても一部の人ができていなければ、集団としては成り立っていないということを知りました。靴をそろえること、マナーを守ることなど日が経つにつれてできるようになったことがたくさんありました。一人ひとりの意識の持ちようで個人の力が高まり、集団としての力を高めることができるのだと実感しました。

2年3組 谷川 浩一朗

## 2年交換留学／ニュージーランド

平成24年7月22日(日)～8月7日(火)  
中学2年生20名は、7月22日から約2週間の日程で、ニュージーランドのバサデナ中学校に行ってきました。ホームステイをしながら学校に通い、授業や学校行事に参加しました。



### 「ほんとうに幸せだと思う」

バサデナ中学校に初めていった時は、とても温かく迎えてくれて嬉しかったです。廊下ですれ違う生徒はみんな、「Hi!」と挨拶してくれて、とても温かい学校だと感じました。また、ホストファミリーの人たちには色々な所に連れて行ってもらいました。どの場所でも楽しく興味深い場所でした。今回、この留学に参加できたことは、本当に幸せだと思います。僕はニュージーランド、そして、バサデナ中学校が大好きです。これから一生懸命努力して、成長した自分と上達した英語をマックスたちに見てもらいたいです。

2年4組 坂本 貴凜

## 4年夜間歩行

平成24年10月5日(金)・6日(土)  
広島県尾道市生口島から愛媛県今治市糸山公園来島海峡展望台を全員目標達成を目指して、今年度も天候に恵まれ暖かな気候の中で行われました。



### 「ここでやめたら後悔する！」

「きっと限界まで疲れるんだろうな。」そう思って臨みましたが、それも甘い考えだったようです。限界などというものはない。ゴールする2～3時間前、もしくはそれより以前に通り過ぎていました。最後の方はただ一歩一歩足を動かしているだけで、足に感覚はなく何も考えられませんでした。私にとっては多分今までの人生の中で最大の苦しみだったと思います。「ここでやめたら後悔する!」という気力だけで最後は歩いていました。でも本当にやって良かったと思います。夜間歩行をやりとげたおかげで、日常の中の様々な幸せに気付かされました。車や電車に当然のように乗れること、眠れること、食べられること、仲間がいることなど。普通に生活していたら、多分それらに対して表面だけの感謝しかできなかったと思います。夜間歩行を通して、苦しいことをやりとげる気力、欲求に耐える力、全てのものへの感謝の気持ちを得ることができました。将来にきっと活かせる経験だったと思います。

4年3組 東堂 咲子

## 4年語学研修／ニュージーランド

平成24年7月21日(土)～8月13日(月)  
4年生の有志25名は引率教員2名と共に、ニュージーランドに約3週間の語学研修に行きました。今年はハミルトン市からタウランガ市に場所を移し、ホームステイをしながら語学学校に通いました。



### 「自分の将来に大いに役立てる」

私がこの語学研修に参加した一番大きな理由は、自分の将来の夢に向けて、NZでもっと英語を上達させたいと思ったからです。文法だけでなく、人と会話することで普段の授業とは異なる生きた英語に接することができて、本当に充実した時間でした。皆が経験しているわけではない、この3週間の時間を自分の中でしっかり活かして自分の将来に大きく役立てていきたいです。

4年2組 和泉 智香

## 5年研修旅行／イギリス

平成24年7月24日(火)～8月11日(土)  
語学研修と世界の友人に出会う旅のはじまりです。ロンドンオリンピック開催で注目を集める国、イギリス。生徒30名はこの国の南部・サセックス州ハーストカレッジに約2週間滞在しました。カレッジでは寮に滞在し、午前中はレベル別の英語授業を受け、午後はアートやスポーツなどの中から希望するアクティビティに参加しました。また、週2回の遠足でケンブリッジ、オックスフォードやブライトンなどを訪れて、趣の異なる街の様子からイギリスの様々な姿を学びました。



## 5年研修旅行／屋久島

平成24年7月23日(月)～28日(土)  
エコプログラム体験として、九州最高峰の宮之浦岳を抱く屋久島は、沖縄から北海道までの気候、植物が体験できる自然豊かな島です。その屋久島の山では白谷雲水峡のトレッキング、安房川ではカヌー、一瀬の海ではシュノーケリングを体験しました。



## 5年研修旅行／伊江島

平成24年10月7日(日)～12日(金)  
28人の生徒は4泊5日の民泊中、貝細工・黒糖作り・釣り・沖縄料理作り・沖縄舞踊・三線(三味線)演奏などの体験をしました。



## 5年研修旅行／北海道

カヌー体験  
平成24年7月22日(日)～27日(金)  
生徒18名が参加した北海道カヌーコース。3日目からは、3日間かけて釧路川を下りました。



### アウトドアスポーツ体験

平成24年7月22日(日)～27日(金)  
北海道十勝管内にある然別湖周辺で生徒18名が、北海道アウトドアコースに参加しました。搾乳体験から始まり、カヌーや登山、エアトリップなどのアクティビティからカーリング体験まで、天候にも恵まれ全てのプログラムを行うことができました。



### スキースポーツ体験

平成24年12月23日(日)～28日(金)  
クリスマス寒波の到来とともに北海道に到着し、しほれる寒さの中で、スキースポーツ体験をしました。



## 5年研修旅行／中国

平成24年7月24日(火)～7月30日(月)  
大自然の中でひたむきに生きる人々と、目覚ましい発展を遂げる中国を14名が体験しました。



## 5年研修旅行／ドバイ

平成24年10月5日(金)～11日(木)  
昨年に引き続き2度目のドバイ研修旅行を実施しました。



### 「イスラム教のイメージが・・・」

ドバイに暮らす人々の温かさがとても印象に残りました。外国人労働者は楽しく働いているように見え、地元の人たちも親切で良い人ばかりでした。現地の高校を訪ねた時には、「お金持ちは富を分配する」などの教えが生活に浸透していることを感じ、イスラム教に対するイメージが大きく変わりました。また、ブルジュ・ハリファの展望台から高層ビルと砂漠を比べて眺めると短期間で発展したドバイの力を直接感じることができ、自分も何か大きいことをやりとげたくくなりました。

5年6組 下村 風香

## 5年研修旅行／越後・妻有

平成24年7月21日(土)～8月13日(月)  
生徒達はそれぞれの受け入れ農家にホームステイをしながら、雪かきの手伝いや念願だった大きな「かまくら」を作ってもらったなど雪国ならではの生活を体験しました。期間中には農家体験に加え、現地で3年毎に開かれる「大地の芸術祭」で制作された芸術作品の見学やスノーシューに履き替えて雪に埋まったブナ林に行く雪上トレッキング、吹雪の中でのスキーなども体験できました。地元農家の方々の温かいおもてなし、そして雪と共に生活する人々の絆や力強さなど、多くの感動と学びを得ることができました。



### 「心の温かさが心にしみ込む」

冬の新潟は辺り一面が雪で、体の芯から寒さを体験してきました。広島では絶対見られない雪の壁や前が見えなくなるほどの吹雪、それらを生活の一部として暮らすことで、「寒い」という言葉だけでは表しきれないほど、冬を肌で感じました。しかしその反面、民泊先のお父さんやお母さん、現地の人々との出会いは素晴らしいものでした。どんな時も私たちを受け止めてくれ、温かい笑顔を向けてくれました。人々の心の温かさは心に深くしみ込み、寒い冬を暖かい冬へ変えてくれました。私はこの暖かい冬を一生忘れず、これからの生活へ生かしていきたいです。

5年5組 新田 千草

# 広島なぎさ中学校・高等学校50周年記念事業のご案内

母校であります広島なぎさ中学校・高等学校は、2年後の平成27年春に創立50周年を迎えます。昭和42年に鶴学園の普通科高等学校・中学校として広島工業大学のお膝元に誕生して以来、半世紀にわたり数多くの歴史を刻み、一万余名の同窓生を社会に輩出してまいりました。

長い歴史の中、平成6年から男女共学校へ、平成20年からは校名を広島なぎさ中学校・高等学校に改称し、海老山南の新校舎に移転されています。"なぎさスピリッツ"に代表される特色ある教育は、建学の精神「教育は愛なり」、教育方針「常に神と共に歩み社会に奉仕する」を受け継ぎ、そして実践している、まさに広島における私学の雄に成長し、OB・OGの同窓生にとって嬉しい母校であると言えます。50年と言う年月を掛けて、広島なぎさ中学校・高等学校を育てて頂いた鶴学園の先生方皆様に感謝する所です。

時を前後し、わが広島なぎさ中学校・高等学校同窓会も学校の創立50周年の翌年、平成28年春に設立50周年を迎えます。広島なぎさ高校の生い立ちから生じた1年遅れ(通常の新設校は3年後に同窓生を輩出)での同窓会の誕生というも珍しいことではないでしょうか?

そこで、同窓会は、学校創立50周年のお祝いと同窓会設立50周年の記念総会の準備を始めていく所でございます。

鶴学園内で名誉総長の銅像が未設置の学校は、広島なぎさ高校だけとなっている現状から、同窓会より学校創立50周年のお祝いとして、現校舎敷地内に、鶴学園の校祖であります鶴名誉総長の胸像の寄贈を提案しております。

(右記:完成予想写真)

平成27年春の学校創立50周年記念行事の際に、寄贈・除幕すべく進めていきたいと考えています。建立費用に付きましては、同窓会予算からの充当

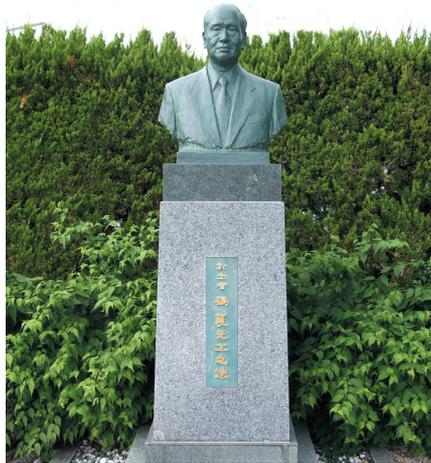
に加え、同窓生の皆様からのご寄付をお願いする所でございます。

学校を訪れた方がいつでも見学できるように、寄付を頂いた方のお名前を胸像の台座に刻もうと計画しております。同窓生の皆様におかれましては、なにとぞこの主旨をご理解いただき、一人でも多くの寄付をお願いしたと存じます。

また、5年に一度の同窓会定期総会も今回は半年早め、同窓会設立50周年記念総会として平成27年夏に開催を予定し、学校の50年と同窓会の50年を同時に語り合える貴重な会にしたいと準備を進めております。

最後に、同窓生の皆様のご健勝と広島なぎさ中学校・高等学校の発展を祈念いたしますとともに、学校創立50周年胸像寄贈へのご寄付と同窓会設立50周年記念総会へのご参加を心よりお願いいたします。

寄付要領については、同窓会通信(2013号・2014号)の寄付募集欄、同窓会ホームページにて詳細をご覧ください。



## 第1期生同期会開催

平成24年6月2日 ホテルセンチュリー21広島  
なぎさ中高の前身である 広島高校一期卒業生が65歳の節目の歳を迎える事により懐かしい青春(高校時代)時代の思い出と新しい母校の発展を願い岡先生、徳田先生(工大高)事務の前原先生そして、なぎさ中高の角島校長先生をお迎えして、同期会を開催しました。



## 第5期生同窓会開催

平成25年6月9日 広島ガーデンパレス  
当日は天候に恵まれ沖井先生を囲んで32名が集まりました。43年ぶりの再会では亡くなられた先生や仲間に黙祷を捧げ、久しぶりの再会に心行くまで話し、懐かしのDVDを鑑賞しながらあつという間に時間が過ぎました。  
また2次会も盛り上がりました。



## 2013大学入試 合格状況 (2013.3月28日現在)

卒業生183名(男子110名、女子73名)

私立大学				国立大学				公立大学			
大学	合格数	内 男子	内 女子	大学	合格数	内 男子	内 女子	大学	合格数	内 男子	内 女子
酪農学園大	2	2		東洋大	2	2		関西大	15	11	4
岩手医科大	1	1		二松学舎大	1	1		関西外国語大	6	2	4
千葉工業大	1	1		日本大	10	10		近畿大	26	13	13
青山学院大	2	2		文教大	3	3		四天王寺大	1	1	1
亜細亜大	1	1		法政大	5	4	1	関西学院大	15	11	4
北里大	1	1		武蔵野大	1	1		撰南大	3	2	1
慶應義塾大	1	1		武蔵野美術大	1	1		畿央大	1	1	1
國學院大	3	3		明治大	6	6		神戸学院大	2	2	
国際基督教大	1	1	1	明治学院大	2	2		神戸薬科大	1	1	
駒澤大	1	1		早稲田大	6	6		甲南大	2	1	1
芝浦工業大	3	2	1	麻布大	1	1		武庫川女子大	2	2	2
白梅学園大	1	1		女子美術大	1	1	1	岡山理科大	3	2	1
昭和医大	1	1		関東学院大	1	1		川崎医科大	1	1	1
成蹊大	1	1		金沢工業大	8	8		川崎医療福祉大	1	1	1
成城大	2	2		愛知工業大	1	1		日赤広島看護大	6	6	6
順天堂大	2	2	2	名古屋学芸大	2	2	2	比治山大	7	3	4
専修大	4	1	3	日本福祉大	1	1	1	広島経済大	3	3	
多摩美術大	1	1	1	京都産業大	2	2		広島工業大	21	13	8
中央大	2	2		京都造形芸術大	2	2		広島国際大	13	10	3
帝京大	2	2		京都薬科大	1	1		広島修道大	21	8	13
東海大	1	1		同志社大	23	14	9	広島女学院大	6	6	6
東京経済大	1	1		佛教大	4	4		広島文教女子大	1	1	1
東京工科大	1	1		立命館大	42	36	6	安田女子大	14	14	14
東京電気大	2	2		龍谷大	12	7	5	産業医科大	2	1	1
東京都市大	1	1		大阪経済大	5	5		福岡大	1	1	1
東京農業大	6	6		大阪工業大	1	1					
東京理科大	9	9		大阪電気通信大	1	1					

## 広島なぎさ中学校・高等学校同窓会事務局

〒732-5138 広島市佐伯区海老山南2丁目2-1 TEL (082) 921-2137 FAX (082) 924-3020

(過年度生を含む)